



# 森林ふれあい情報

令和 元年 7月  
第 51 号

林野庁中部森林管理局  
木曾森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

## 木曾の国有林見学会(令和元年春季)

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会(令和元年春季)」を5月23日(木)に開催しました。

この催しは、江戸時代より繋がり深い木曾地域と木曾川下流の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曾川下流域市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び、木材が名古屋市熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただくことを目的として、平成27年度から開催しています。

開催にあたっては、参加者の中で希望者を対象に、より見学会を有意義にさせていただくために、名古屋事務所が「熱田白鳥の歴史館」で木曾地域との関係や赤沢自然休養林の概要など写真や映像を使い、理解を深めるための事前学習を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、名古屋市内を中心に35人が参加し、赤沢自然休養林に到着後は、中部森林管理局次長から歓迎の挨拶、その後、森林鉄道に乗り込み車窓から見える芽吹き始めた新緑が輝く森林と溪流が織りなす景色を楽しみました。また、江戸時代から約三百年余の時を刻み見事に成長した木曾ヒノキや天然サワラがうっそうと生い茂る林内を森林散策しながら、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わりや木曾



歓迎の挨拶を行う森脇次長

五木の樹種の見分け方や特徴などを学習しました。

参加者からは「参加して大変よかった」「楽しかった」「名古屋市とは空気が全然違う」と言った感想が聞かれました。

この国有林見学会は、木曾復興支援の取組としても位置づけており、今後も実施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しとなるよう努めて参ります。今年度も引き続き春・夏・秋の年3回を計画しており、特に夏の開催時には、子供達の夏休みの期間中の休日に実施するため、多く子供達が参加してくれることを期待しています。



熱心に説明を聞く参加者達

## 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー

「木曽路トレッキングパズルラリー」の普及版であり、赤沢自然休養林内の遊歩道を利用して、短時間で完成することができる「赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー」の第5弾を平成31年4月27日から、引き続きパズルが無くなるまで実施しています。

パズルの絵柄は、中部森林管理局が所蔵し林業遺産にも登録された「木曽式伐木運材図会」の1場面を6分割したものです。

この木曽式伐木運材図会は、江戸時代後期頃の木曽地方や飛騨地方の奥山で大木を伐採するところから、造材、搬出・集材、木曽川でのいかだによる流送、熱田の白鳥湊（愛知県名古屋市）での集積、更に大型船による海上輸送までの様子が、作業工程順に絵図と詞書(ことばがき)で説明されている絵巻物2巻からできており、今回の第5弾では、上巻の中から「柚小屋の図 其二」を採用しました。

参加方法は、赤沢自然休養林内の遊歩道各コース6箇所分割された紙ピースが入った箱を設置し、その中に入っている紙ピースを応募用紙に貼り付け完成させ、園内の交換所に持ち寄り、応募用紙と引き替えに木製ピース、貼り板、台座と交換するルールとなっています。



柚小屋の図 其二



パズル箱



紙パズルと応募用紙

赤沢自然休養林を訪れた際は、ぜひ挑戦してみてください。

## 城山史跡の森

「城山史跡の森」は、木曾郡木曾町福島の中心街の近くにあり、福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を利用した気軽なハイキングコースとして知られています。

また、長野県指定希少野生動植物であるササユリ、ヤマシャクヤク等が自生しており、地元住民らで構成する「城山史跡の森倶楽部」等と連携して希少植物の保護活動等に取り組んでいます。

### 遊歩道整備



遊歩道の補修作業

春の観光シーズン前の4月8日（月）に、城山史跡の森倶楽部の会員、木曾森林管理署と当センターの職員を含め22名が参加し、3班に分かれて、遊歩道の点検や整備を行いました。今年は、遊歩道に倒木がなく大きな補修はありませんでしたが、遊歩道脇の谷が昨年の台風等で埋まっており、その溝掘りを中心に崩土の除去、階段の修理等に汗を流し無事作業を終了しました。

また、今後も夏と秋にも遊歩道整備が予定されています。

### 電気柵の設置

5月13日（月）に城山史跡の森倶楽部の12名の皆さんとともに、ササユリ生育地に電気柵の設置作業を行いました。

ササユリ生育地では3年前から野生動物による食害が発生していたことから、同倶楽部と連携して設置を始めました。

ササユリ生育地では雑草等の繁茂のため設置に苦労しましたが、会員も設置4年目となりなれた手つきで予定より早く作業を終えることができました。

電柵設置終了後、カザグルマ生息地において雑ツルの除去など整備を行いました。

今後も地域の方々と連携した希少植物の保全活動等に努めて参ります。



電気柵の設置作業

## 希少植物等の開花調査

城山史跡の森は低山帯で本州の中部に位置していることから、東日本、西日本、太平洋側、日本海側に見られる植物が混在し、その数は470種以上といわれています。

また、長野県の希少野生動植物に指定されているヤマシャクヤク、カザグルマ、ササユリが生育しており、これら3種の生育地に加えてカタクリの生育地での開花状況等の調査を実施しています。

◎ 今年度の開花数（カッコ書きは平成30年度の開花数）

ヤマシャクヤク	218	(177)
カザグルマ	161	(111)
ササユリ	28	(37)
カタクリ	4	(14)



ヤマシャク



ササユリ



カザグルマ



カタクリ

今年度は例年より若干遅い開花傾向でしたが、カタクリ以外は概ね良好な生育を示していました。（カタクリの開花は減少していましたが、個体数は増加していました）

## 森林ボランティア作業支援

### 地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に木曾郡上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始以降、自然休養林に隣接するヒノキ人工林等で森林整備作業を継続して実施しています。

5月25日（土）、26日（日）に行われた「第218回 山と緑の協力隊」では19名の参加者のもと、約21年生の人工林ヒノキの除伐作業を行いました。

当センターは木曾森林管理署と連携して、道具類の貸し出しや、安全および作業指導を行いました。

初めて協力隊の作業に参加された8名のみなさんは鋸の使い方に戸惑っていましたが、グループ班長らのサポートもあり、慎重に伐採するなど丁寧な作業に努めていました。



除伐作業を行う参加者

### 中日森友隊

中日森友隊は、市民参加の育林作業を通じて、健全な森林環境づくりの手助けを行い、「緑を育て森に親しむ」市民の輪を広げ次世代に伝えることを目的とし、愛知県設楽町に造成した「中日森友隊の森」を中心に活動をしている緑のボランティア団体です。

この森林ボランティア作業は、木曾郡王滝村で昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震の災害復旧箇所である「国民の森」で毎年継続して除伐作業を実施していましたが、昨年度の7月下旬に発生した豪雨等により、作業地及び使用する林道等の状況の確認ができていないことから、昨年度と同じ「名古屋市民おんたけ休暇村」で、5月4日（土）にヒノキ人工林の間伐作業を、休暇村職員及び当センター職員の作業指導のもと実施しました。



伐倒作業を行う参加者

当日は天候にも恵まれた中で、参加した14名は3班に分れ、ノコギリを使用して形質不良の植栽木等の伐倒と枝払い及び1.5mでの玉切り、その後歩道までの運搬作業を行いました。

ヒノキ等の伐倒作業では、ほとんどがかり木となるなか、当センターから貸出したロープ、フェリングレバーを使用して、かり木処理をするなど安全作業に徹して作業を行った結果、全員が怪我もなく無事に作業を終えることができました。

最後に参加された方々からは「楽しく作業ができました」との感想が聞かれました。

## 第70回長野県植樹祭

6月8日（土）長野県木曾郡木曾町三岳御嶽ロープウェイ 黒沢御嶽国有林で、県内外から参加した約1,000名が「育てよう 未来の森を いろどる木」を大会テーマとして植樹祭が開催されました。

当日は小雨が降るなか、宮澤局長の開会の挨拶から始まり、各セレモニーが順調に行われ、最後にみどりの少年団と地元猟友会によるキジの放鳥が行われ、式典が無事に終了しました。その後、参加者達は各グループ毎に分かれ植樹会場に移動し、約30cm程度に生長したカラマツのポット苗5,600本の植栽を行いました。

また、同時に上皇さまが、天皇在位中に平成28年度に長野市で開催された全国植樹祭の時に播かれたカラマツの種から育った苗木3本も、新天皇の即位を記念して植えられました。

当センターは木曾森林管理署と連携して、道具類の貸出しや植付指導等を行うとともに、出展ブースでは中部森林管理局の取組や当センターで行っているパズルラリーや「木曾悠久の森」スマートフォン写真コンテストの募集の紹介などを行いました。



植樹作業を行う参加者の皆さん

## 林業体験指導等

### 上松技術専門校

長野県上松技術専門校は、木工加工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大切さ・大変さや木曾の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。



熊皮剥き防止テープを巻く訓練生

5月10日（金）訓練生約38名により、熊による皮剥ぎ被害を防止するため、植栽されたヒノキの幹に熊皮剥き防止テープを巻く作業を実施しました。春の日差しが眩しい中での作業となり、最初は戸惑いながらでしたが、時間が経つにつれ、なれた手つきで多くの造林木にテープを巻くことができました。

作業終了時には、赤沢自然休養林まで移動し、学術参考林の「千本立」、「奥千本」を見学し木曾ヒノキの歴史等について学びました。当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業の指導と散策の案内を行いました。

## 木曾青峰高校



チップ敷を行う生徒達

木曾郡木曾町にある木曾青峰高校では、毎年体験学習として、赤沢自然休養林内の遊歩道へのチップ敷設作業と森林散策を行っています。

5月24日（金）は、1年生の約124名は8班に分かれ、生徒全員が新緑が芽吹く好天のなか、学術参考林の「奥千本」を含む約2時間30分の散策と、各散策コースでチップが薄くなった箇所、生徒自らヒノキチップの袋詰めから運搬、更にチップ敷きを汗をかきながら作業を行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。

## 犬山中学校

愛知県犬山市の犬山中学校は、市の水源の一つである木曾川上流の木曾地域において、木曾の自然や文化を学ぶ木曾総合学習を2日3泊の日程で平成11年から毎年行っており、今年で21年目となりました。

2年生の約224人は、その最初の体験学習として、5月29日（水）に赤沢自然休養林内で、遊歩道へのヒノキチップ敷設作業と森林散策を3つのグループに分かれ行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。



遊歩道にチップを敷く生徒達